

# 健診検査センターニュース

No.592 号

## 運営委員会概要

5 月 15 日（火）平成 30 年度第 2 回の運営委員会を開催いたしました。

1. 特定健診 4 月の実施件数は、下記のとおりでした。

	4 月受診数（前年比）	累 計（前年比）	函館市国保受診率 4 月現在 0.0% / 目 標 30.0%
函館市国保	0 人（ 0 人 0.0%）	0 人（ 0 人 0.0%）	
後期高齢者	0 人（ 0 人 0.0%）	0 人（ 0 人 0.0%）	
その他	45 人（△14 人 76.3%）	45 人（△14 人 76.3%）	
合 計	45 人（△14 人 76.3%）	45 人（△14 人 76.3%）	

実施機関：32 施設／登録機関 102

○ 4 月より、被用者保険被扶養者等特定健診の個別健診が始まりました。

2. 30 年 4 月の健診検査事業収益は、下記のとおりでした。

	4 月（前年同月比）	30 年度累計（前年比）
一般検査収入	102.4 %	102.4 %
健診収入	139.4 %	139.4 %
合 計	110.9 %	110.9 %

3. 平成 29 年度の決算について詳細な説明がされ、協議の上承認されました。

## 《 ちょっと一言 》

最近のニュースで「優生保護法」がヒートアップしています。私も優生保護法指定医（現在は法律の変更により母体保護法指定医と名称変更）でしたので、色々思うところがあります。

自分のキャリアの中で最初にこの法律と関わったのは、医師になって2年目に研修で勤務していた総合病院に、養護学校に通う中学2年生の女子が妊娠して受診しました。知的障害があり、会話での意思疎通はほとんどできませんでした。親からの問診では、どうも同級生の男子と性交渉をしたらしく、月経がない、と連れてこられました。やはり妊娠していましたが幸い妊娠初期だったため、オーベンの先生が手際よく段取りをし中絶手術をしました。今思うと、本人が妊娠に気付きにくい状況で、妊娠を早期に発見できたのは、親が娘の月経がちゃんと来ているかに、かなり注意をしていたからだと思います。その当時、新米医師の自分は「知的障害があると、抑制がかからずセックスしちゃうんだ。本能ってそういうものなんだ。」と妙に納得した記憶があります。実際は知的障害がなくても妊娠してしまう中学生は多くはないがいます。

その後、臨床経験を積んでいく中で、知的障害の娘が間違っただけで妊娠したらどうしよう、という母親からの相談はたくさん受けました。親御さんにとっては、障害のある子どもの面倒を見ること自体大変なのに、その子が妊娠しても、産ませることなど到底無理、と思っています。私は基本的に経口避妊薬を飲むことをお勧めし、多くの場合、親御さんの同意のもと（ご本人に同意を取ることは困難なので）薬を処方しています。現在は優生保護法はありませんから、当然、薬の処方はずべて自腹です。もし昔のように、親の同意で公費で不妊手術ができたなら、親御さんの負担はとて軽かったんだろうなと思います。

マスコミで取り上げられるのは、自らの意思に反して強制不妊手術をされた方ばかりですが、物事には必ず二面性があります。娘に不妊手術を受けさせて、毎月の月経がちゃんとあるのかの確認から解放された親御さんは決して少なくないのではと思います。

（文責 小葉松 洋子）

## 新規実施項目のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。  
さてこの度、下記の検査項目を外部委託項目として実施することとなりましたので、お知らせいたします。何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

**開始日**：平成30年6月1日（金）受付分より

**開始項目**：4679 HTLV-1 抗体

検査方法	ラインプロット法（LIA法）
採取容器 （採取量）	① 分離剤入り採血管 （採血量 1.0mL）
所要日数	4～6日
基準値	陰性 判定基準：下記参照
実施料 判断料	425点（[DO12]感染症免疫学的検査[49]） 144点（免疫学的検査判断料）
備考	測定対象は、抗 HTLV-1 抗体および抗 HTLV-2 抗体です。型別の報告ではありません。

ヒトT細胞白血病ウイルスI型（HTLV-1）は成人T細胞白血病（ATL）やHTLV-1関連脊髄症（HAM）等の起因ウイルスであり、HTLVキャリアの大部分は抗HTLV-1抗体を保有しています。HTLV-1抗体検査は、ATL、HAMの診断補助や、母子感染などの感染防止を目的としたキャリア検出に重要な役割を果たしています。

HTLV-1抗体検査は、一次検査としてPA法やCLEIA法が用いられ、陽性が確認された場合に、ウエスタンプロット法（WB法）による確認検査が行われています。WB法の結果により判定が確定されますが、判定保留率が10～20%と高いことが問題となっています。

本項目は、ラインプロット法により、抗HTLV-1抗体および抗HTLV-2抗体を検出する定性検査です。WB法と同様、一次検査での陽性例に対する確認検査として、新たに保険適用となりました。現状のWB法に比べ、判定保留率が低減することが期待されています。

### ▼判定基準

ラインが認められない		陰性
ラインが1本認められる（ $\geq$ ±）	gag p19かgag p24か env gp46のいずれかが認められる	保留
	env gp21が認められる	
ラインが2本認められる（ $\geq$ ±）	env gp21が認められない	陽性
	env gp21が認められる	
ラインが3本以上認められる（ $\geq$ ±）		

### ▼参考文献

Zrein M, et al : Clin Diagn Lab Immunol 5 (1) : 45～49, 1998. （検査方法参考文献）

Umeki K, et al : Clin Lab 63 (2) : 227～233, 2017. （臨床的意義参考文献）

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター  
TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580  
E-mail : info@hma-labo.jp